

「人口減少」という問題



岡崎市副市長
寺田 雄司 氏

教育随想

昨年実施された国勢調査の人口速報値が二月に総務省から公表されました。公表された数値によりますと、日本の総人口は、一億二七一一万人で、五年前と比べて九十四万人減少したことになります。国内各地に目を向けますと、多くの地方で人口減少が加速化していて、三十九の道府県で人口が減っています。

この人口減少という調査結果については、ある程度は予想されていたものの、現実の数値として公表されますと、いよいよ日本が人口減少社会に入ったことを改めて認識するとともに、日本の社会が抱える将来的な不安が胸を過ります。

この人口減少の問題は、今後の日本社会における労働力不足への懸念、そして日本の経済成長への不安材料としてよく取り上げられますが、人口減少の進行は、地方の「まち」、そして、そこで暮らす人々の「生活」にも大きな影響をもたらすのではないかと心配されています。

たとえば、地域の人口減少によって、飲食、小売、医療機関、金融機関などの生活関連サービス施設が地域から撤退し、生活の利便性が著しく低下するとともに、サービスの施設の撤退により、地域の雇用の場も減少し、さらなる人口減少を招くことになら

ならないか。

また、人口減少による地域の経済活動の縮小、あるいは後継者の減少で、空き家、空き店舗、廃工場、農業では耕作放棄地などが増加し、地域の景観及び治安の悪化など、地域の魅力が低下し、さらなる人口減少を招くことにならないか。

さらに、県や市町村の財政にも大きな影響を及ぼすこととなります。地域の人口減少とそれに伴う経済活動の縮小によって、県や市町村の税収は減少することになりますが、一方で高齢化社会の進行から福祉や社会保障関連の費用の増加が見込まれ、その財政状況はより一層厳しさを増すこととなります。それまで受けられていた行政サービスの見直し、あるいは廃止といった事態も予想されます。

このように、人口減少は「まち」に、そして、そこに住む人々の「生活」に様々な大きな影響を及ぼすことが心配されています。

幸いにして、今回の調査による愛知県

県内においても四割近くの市町村において人口が減少しています。そうした中、高い比率で人口が増加したことは、この地域の特徴でもあるものづくり産業によってこの地域の経済及び雇用が支えられて来たそのお蔭であると改めて思うわけです。それに加えて、この岡崎の地で積み重ねられて来た歴史、文化、伝統を背景に、「住みよいまち」をつくるとうと、環境、福祉、そして教育などいろいろな分野で、行政のみならず、多くの市民の方々が力を合わせて努力して来た、その成果でもあると思うのです。

今後も引き続き、ものづくりをはじめ地域の産業の発展に向けて力を注ぐとともに、多くの人が、訪れたい、さらには、住んでみたい、そして住み続けたいと思うような、そうした「魅力あるまちづくり」を市民の方々と一緒になって進めて行き、その成果を次代を担う岡崎の子どもたちに引き継いで行くこと、それが私どもに課せられた使命であると改めて思う次第です。(てらだ ゆうじ)



月報 岡崎の教育

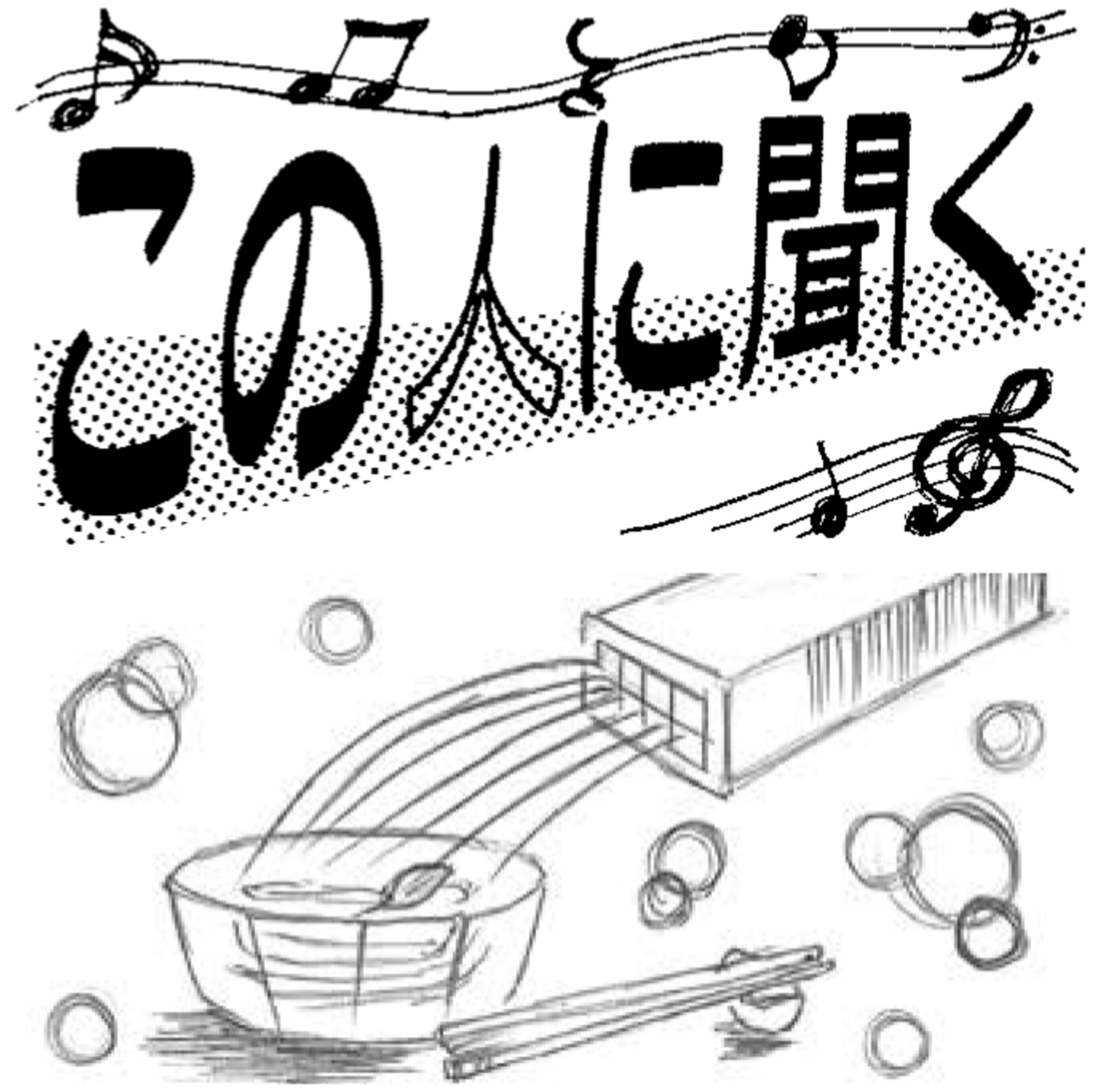
平成 28 年 4 月 1 日

4 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎市副市長	
寺田 雄司氏	
この人に聞く……………	2
蒟蒻・心太職人	
長坂 光司氏	
羅針盤……………	2
福岡小 校長	
鈴木 実俊	
ふれあい……………	3
広幡小	
寄田 彩日	
特集……………	4
平成28年度 岡崎の教育	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
プール建設工事	
(昭和 39 年)	
この本を……………	8



何と言われても一所懸命

蒟蒻・心太職人
蒟蒻：心太職人

長坂 光司 氏

「縁の下の埃^{ほこり}まで、全部お前にやる。」創業以来百二十年続く池田屋の長男として生まれた長坂さんは、幼いころより祖父にこう言われて育った。子供ながらに将来は家業を継ぐのだからなど思っていた。

「大学時代、友達と話をしていると、卒業後は薬品会社に入って新薬を作るなど、皆、自分の進路について大きな夢を語るんです。蒟蒻屋になることが決まっていた私ですが、好んでその道を選ぶまでにはなれませんでした。あまりかっこいい仕事ではありませんから。」

蒟蒻屋から逃げ出したいくて、卒業後五年間、食品会社に就職した。そこで働くうちに自分の考えが間違っていたことに気付いた。「その会社で出会った先輩は、いつ

も自分で考えて行動していて、とても生き生きとしていました。どんな仕事も一所懸命働けば尊い。」

そう思い、二十七歳のときに池田屋を継ぐことを決心した。

「最初の十年は本当につらかったです。蒟蒻屋には三六五日、休みはありません。友人の中には、なぜ、大学で研究してきたのに、蒟蒻屋になるんだ、と言う人もいました。肩書なんかどうでもいいと思っていましたが、面と向かって言われるのはつらかったです。百三十年の伝統のおかげでなんとか誇りをもつことができましたのだと思います。」

四十五歳のとき、工場長の急逝により、製造に携わることになった。

「今まで見てきたので分かっているつもりでしたが、いざやってみると難しく失敗の連続でした。でも、逆にやる気が出ました。特に心太作りには可能性があるのを感じました。」

それからは心太づくりに全力を注いだ。心太は、天草^{てんそう}が原料になる。天草は、産地によって質や硬さが違うため、こしや粘りにばらつきが出る。また、磯のいやなにおいが残るのも気になった。そこで、透明感と粘り、喉越しが良い心太を作りたいと思うようになった。

「それからは試行錯誤の連続でした。材料の配分や煮るときの温度、時間など、一つ一つを数値化していくことが重要でした。ここで大学の研究室での経験が役立ちました。」

こうして十年の月日をかけて「透

きとおる喉越し」が自慢の心太を完成させた。これが評判となり、売れ行きはそれまでの五倍になった。従業員だけでは人手が足りず、帰省していた大学生の息子の手を借りた。「せっかくの休みに働かせて悪いなと思っていましたが、東京に帰る際、息子に『お父さんのやっている仕事は地味だけど、一所懸命にやっていると報われるんだね』と言われました。それを聞いて泣きました。」

長坂さんの研究の道はまだまだ終わらない。子供たちも食べられる味を考えたり、糖尿病患者の方が食べられるものを作ったりしたいと考えている。

「伝統は守るだけでなく、攻めていくことが必要です。心太を多くの人に食べてもらうためにもいろいろな食べ方を提案していきたい。」

長坂さんの一所懸命の挑戦は、これから続く。



氏名 ながさか こうじ
生年月日 昭和三十二年十月二十九日
住所 岡崎市井田南町

羅針盤

学ぼうとする力を

福岡小 校長

鈴木 実俊

寒い時期、休み時間に縄跳びをする子供は多い。その様子を近くで見ていると、「先生、見て」と、話しかけてくる。そして、新しくできるようになった技を、得意げに披露してくれる。

そんな中、「先生、二重跳びができん」と、相談してくる子供がいた。「そうか。ちょっとやってみて。」

ここで、その子の問題を見取る。「○○さんは右利きだね。じゃあ、縄跳びを左手に持って、二十回、回してみようか。だんだん速くね。なるべく手首だけで回すんだよ。」

と話す。見立てが間違っていない限り、この方法でほとんどの子供が二重跳びを跳べるようになる。できるようになった子供は大喜びで、今度は二重跳びの連続に挑戦していく。

しかし、この様子を隣で見ていた



その子らしさが輝く

広幡小 寄田 彩日

四月、新しく担任になった二年生の学級で、この一年の目標をカードに書く活動を行った。子供たちは皆真剣に考え、一文字一文字丁寧に書いていた。そんな中、枠からはみ出るほどの字を、走り書きのような勢いで書くA男が気になった。

「教室に掲示するものだから、もうちよつと丁寧に書いてほしいな。もう一枚新しいカードをあげるから書き直そうよ。」

私が声をかけると、A男は面倒くさそうな顔をして「別にこのままでいいもん」と答えた。その言葉からは、どうせ書き直しても同じだから面倒だ、という気持ちが伝わってきた。

A男は元気のよい児童だ。クラスを盛り上げるムードメーカーのような存在である。一方、面倒なことや苦手なことはほとんどやらない。特に、文字を書くことには強い苦手意識をもっているようだった。

私は、丁寧に字を書かせようと思いい、授業中、何度もそばへ行き、「もうちよつと上手に書こうよ。」と声をかけ続けた。しかし、A男は顔をしかめるだけだった。心なしか、いつもの明るい顔がだんだんと曇っていきような気がした。もう文字のことで声をかけない方がいいのだろうか。私の中に諦めに似た感情が生まれ始めていた。

そんなある日、書写の授業で、隣の子供と文字のよさを見つけ合う活動を行った。A男の隣には、B子がいた。B子は、乱雑に書かれた字を見て、なんと言うのだろう。心配をしながらそばに行くと、B子が言った。

「A男くんの字って、元気がよくていいよね。」

その言葉を聞いたA男は、「そうかなあ。こんなの適当に書いてるだけだよ。」

と言って、照れくさそうな笑みを浮かべた。「適当に書いてるだけ」と強がっているながらも、褒められてうれしいという気持ちが伝わってきた。

その様子を見ていた私は、教師として大切なことを忘れていた自分に気付いた。それは、その子らしさを見つめること。そして、その子のよさを認め、褒めること。

運動会のかげ声を誰よりも大きな声で言うA男。掃除の時間に黒板をぴかぴかにしようとする頑張りA男。やるときはやる、この子には、よいところがたくさんあるではないか。



私はすぐさまA男に言った。「字はその人を映す鏡なんだよ。この『あ』の字は、A男くんの力強さが出ていていいね。」

A男はその字をしばらく見つめた後、真剣な顔をして言った。

「ぼく、本気になれば、もっとうまく書けるよ。」

そして、再び字を書き始めたのだ。それからのA男は、

「先生、見て、見て、ぼくの字。」

と頻りにノートを見せに来るようになった。そこにあるのは、以前の面倒くさそうな顔ではなく、苦手なことにも挑戦し、自信に満ちあふれた笑顔だった。

A男には私が気付いていないよいところがまだまだたくさんあるだろう。それを見つめる日が楽しみだ。

子供に「一緒にやってみよう」と声をかけても、やろうとはしない。目の前で二重跳びができるようになって喜ぶ友達の様子を見ても、違う跳び方で遊んでいる。体育の時間ではないので、こちらも無理強いはいしない。

この二人の違いは、心の中に「二重跳びができるようになりたい」という思いがどれだけあるかである。

技能教科を指導する場合、私たちは一人でも多くの子供が、または、すべての子供たちが「できるようになる」ことを願う。子供の技能の向上を目指して、教材・教具を含め指導技術の工夫を行う。子供たちは実際にできるようになると、「やったあ、できた」と喜びを表してくれる。指導技術の力量を高めることはとても大切なことである。

しかし、私たちは技能練習に入る前に、どれだけ子供たちの「できるようにになりたい」という思いを高めているだろうか。この点を常に考える必要がある。得点や達成率のみに目がいつているようではいけない。「学んで得た力」も大切であるが、「自ら学ぼうとする力」をもっともつと育んでいきたいと考える。

このことは、私たちの教員研修にも、全く同じことが言える。



平成28年度 岡崎の教育

▲タブレットPCを活用した授業（葵中）

岡崎の教師

四月、私たちは、子供たちと新たな出会いをした。子供たちは期待に目を輝かせて、私たちの言葉を待つ。私たちはこの目の輝きを失わせてはならない。

次期学習指導要領のキーワードが示され、「アクティブラーニング」をはじめとした様々な言葉が、教育情報誌や機関紙の至るところに見られる。まさに「流行」といったところである。しかし、その内容は、主体的・能動的な学習者を育てることであり、決して新しいものではない。

自分の思いや考えに価値を見出し、周りの「ひと、こと、もの」と関わりながら主体的に学んでいくことが、生きる力と豊かな人間性を育むことにつながる。そして、将来、自らの幸せな人生を自分で創っていく力になる。私たちが日々行っている教育活動の目指すものと、何ら変わらぬ。

これまで知恵を絞り、情熱を傾けて行ってきた岡崎の教育は、不易であり、誇りと信念を持って取り組むべきものである。

私たちを見つめる子供の期待に満

ちた目の輝きは、立派な大人に成長するための種である。この種を芽吹かせ、自ら成長できるように育てていく。決して途中で枯らすわけにはいかない。失敗は許さないのである。

そのためには、崇高な理想を持ち、高い倫理観のもと真摯に子どもと向き合う覚悟がなくてはならない。この覚悟をもって教育活動にあたることを、岡崎の全ての教師は、子供から期待されている。

岡崎の教育の視点

園・学校教育に求められているものは、幼児・児童・生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。その原点には、教師の「子供の幸せを願う強い思い」と「人間形成への情熱」がなければならない。

各園・学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、子供の個性を伸ばす教育を展開する。そのために、園・学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生



▲森を守る間伐体験（額田中）



▲GCTの授業（竜南中）

かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある園・学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全園・全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働し、信頼される教育の創造に努めていく。

特に次の三点を指導の重点とする。

◎学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

◎命の尊さや地域・郷土の価値に気づき、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進

◎体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

岡崎の特色ある取り組み

～ESDのさらなる推進～

①英語教育の充実

昨年度より始めた中学校でのグローバルコミュニケーションタイム（GCT）二年目のカリキュラムを

確実に実施する。また、小学校においては教育課程特例校を継続し、自作DVDの視聴をはじめとした英語活動・英語学習を通して、英語を聞く力を育む。こうした九年間の英語教育により「英語を話せるおかしきっ子」の育成を目指す。

②環境教育の充実

『岡崎市環境学習プログラム』を着実に実施し、『ワークシート・パフォーマンステスト集』を積極的に活用する。これにより、直面する様々な課題に関心をもち、主体的に考え、判断し、行動できる資質・能力を育てていく。

③「岡崎の心」の醸成

岡崎に関わる「ひと・こと・もの」を教材や題材として取り上げ、岡崎の心の醸成を図る。また、市制施行一〇〇周年関連行事を通し、岡崎を学び、ふるさとを大切に思う心を育む。これにより、みずみずしい感性や優しさ、思いやりなどの豊かな人間性を育成するとともに、多様性を尊重する態度の基礎を育成する。

重点努力事項

今、私たちが取り組むべき事柄として、以下の五点を挙げる。

①「心」を育成する教育活動の重視
道徳の授業の充実はもちろん、他者を思いやる心を育む教育活動を重視する。また、深い子供理解に立ち、心に寄り添った生徒指導を行う。

②自己肯定感、自己有用感を実感する授業の充実
協働的、能動的な学習活動を工夫し、全員参加型のわかる授業、できる授業、楽しい授業を実現する。

③「チーム学校（ピラミッド型組織）」の確立・充実
目的を共有した教職員のワークシェアと協働により教育活動の充実と効率化を図る。また、諸問題に対する情報共有の組織化を図り、迅速かつ適切な対応を可能にする。

④学校ICT化の推進

タブレット等ICT機器を活用し、個に応じた学び、協働的な学びのある授業を実現する。また、サーバーの活用により情報の確実な管理を強化する。

⑤学習指導要領改訂を視野に入れた授業研究の推進

道徳の教科化、小学校英語の教科化、アクティブラーニング、インクルーシブ教育について研究委嘱校により授業研究を進める。

お知らせ



●岡崎市教育委員会

平成二十八年四月一日より、岡崎市では新教育委員会制度に移行し、高橋淳氏が教育長に任命された。それにとってもなつて、これまで委員長だった福應謙一氏は、教育長職務の代理者となつた。他の櫻井敬子氏、土屋武志氏、小出義信氏の三委員については、変更はない。

また、事務局も、これまでの二班体制から、指導管理班、教育支援班、学事保健班の三班体制となつた。

●教育関係機関だより

◆教育相談センター

☎七一一三三〇一

いじめや不登校、就学等の教育相談「そよかぜ相談室」と不登校児童生徒適応指導教

室「ハートピア」と合わせて開所し、六年目となつた。本年度より、新たにスクールソーシャルワーカー四名が配置されている。

○そよかぜ相談室

主な相談内容は、いじめや不登校、就学、特別支援教育、虐待等の家庭の問題である。相談したい場合は、電話で予約をした後、来所すれば臨床心理士やスクールソーシャルワーカー、相談員が対応する。また、発達障がい等の専門家が巡回相談を実施している。

○ハートピア竜美

☎七一一三三〇七

学校への復帰を目指し、子供がハートピアへ通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による支援を受ける。また、通所できない子供には、学校からの要請に応じて、登

校支援員が家庭訪問をするなどして、登校の支援、相談等を行っている。

○スクールソーシャルワーカー

虐待等、家庭の問題についての相談を行ったり、必要に応じて関係機関との連携を図る。

◆岡崎市総合学習センター

○一階受付

☎五四一―一一五

○教育研究所

☎八三一七七七〇

岡崎市総合学習センターは、平成二十三年八月にオープンし、大・小ホール、教育研究室等を完備した教育施設として多くの人に利用されている。特に、教育研究所内の教育図書室は、学習指導案の閲覧、図書資料の貸し出し、学芸会等行事のDVD視聴などができ、現場の先生方に役立つ情報が充実している。

また、教育アドバイザーが常駐しており、教育に関する様々なことについて、相談することができ。

○ハートピア上地

☎五八一―四八三一

昨年度より、適応教室の利用

希望者増加に対応するため開設された。事業内容は、「ハートピア竜美」と同じである。

◆少年自然の家

☎四七一―二三五七

新しい年度が始まり、四月中旬から中学校五校をはじめ、小学生対象の四十一団体の子どもたちの来所を心待ちにしている。希望に胸を躍らせる子どもと、子どもたちを指導される先生方とのパイプ役とし、所員の飽くなき挑戦が始まる。

今年度は、山の指導員二名の内二名が変わつた。新しいスタッフの活躍を期待している。今年度も、恒例の年8回に亘る「ネイチャークラブ」と夏の「ワイルドキャンプ」の他、「すぶちの春」「蛍に親しむ夕べ」「すぶちの秋」「ミニ門松作り」「星空に親しむ集い」などと、主催行事も多く、子どもたちの笑顔があふれる様子が待ちどおしい。

自然に親しみ心豊かな岡崎の子どもたちが育つように充実した自然体験活動を目指したい。

●表彰

◆全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト東海支部大会
金賞（全国大会出場）
竜海中 鈴木 順子

◆全日本アンサンブルコンテスト
銅賞 北中 金管八重奏

◆声楽アンサンブルコンテスト全国大会2016
優良賞 竜海中学校

◆中部日本個人・重奏コンテスト県大会
○小学校 個人の部
金賞 竜美丘小 成田 百花

○小学校 重奏の部
金賞 大樹寺小 打楽器五重奏

○中学校 個人の部
金賞（本大会進出）
矢作北中 勝野 友梨

金賞 美川中 名節 美晴

○中学校 重奏の部
金賞（本大会進出）
北中 金管八重奏
金賞 竜海中 サラフォン七重奏

◆全国児童才能開発コンテスト

○作文部門

全国都道府県教育長協議会会長賞

岩津小 内田 陸也

竜谷小 齋藤陽花梨

全国連合小学校長会会長賞

矢作東 深見 幸生

江村 恵

岩津小 今村 颯

日本PTA全国協議会会長賞

根石小 清水 心結

本宿小 安達 隆志

学研賞

竜美丘小 藤井 和奏

財団理事長賞

六ッ齋 工藤 優衣

竜美丘小 兵藤 結佳

◆税に関する小学生の作文

岡崎税務署長賞

梅園小 加藤 那奈

岡崎市長賞

根石小 柴田 愛唯

岡崎市教育委員会賞

六ッ齋 山本梨々菜

租税教育推進協議会会長賞

六ッ齋 長嶋 佳歩

税務連絡協議会会長賞

常磐東小 太田 翔平

岡崎法人会会長賞

小豆坂小 佐野 花音

●期待の新任教員

平成二十八年度岡崎市小中

学校新規採用教員は七十七名
(養護教諭を含む)である。

なお、新任教員の配置は次のとおりである。

◆新規採用教諭

梅園小学校 本郷 水紀

根石小学校 松浦 圭祐

福田 恭子

男川小学校 熊澤祐里奈

南谷 明穂

美合小学校 浅川 浩美

緑丘小学校 齋藤 采佳

柴田 拓磨

羽根小学校 山本 悠司

遠藤 綾子

岡崎小学校 岩田かおる

徳原 悠人

六名小学校

藤田 善輝

手操恵理花

竜美丘小学校 藤田 茜

酒井 陽菜

連尺小学校 三浦未奈子

繁原 悠太

井田小学校 國安 崇史

金田 実希

愛宕小学校 大谷 綾香

竜谷小学校 松原まやの

藤川小学校 林 真衣

尾藤 仁美

山中小学校 高橋加奈子

田中章太郎

高橋 侑也

本宿小学校 苗村 理乃

石谷 遼一

生平小学校 黒柳 成実

常磐南小学校 常磐小学校 太田 志穂

小林 慶子

細川小学校 杉浦 功宜

廣瀬 裕美

岩津小学校 岡村 実咲

櫻井 悠人

矢作東小学校

富田 有華

長島 亮輔

矢作北小学校 中本 智裕

深谷 昌弘

矢作西小学校 高橋祐一郎

今岡 美晴

矢作南小学校 伊豫田奈々子

大平穂乃香

六ッ美中部小学校 石川 駿

六ッ美北部小学校 畔柳 圭祐

高橋 侑希

六ッ美南部小学校 馬場美津紀

加藤 玲奈

城南小学校 石原 玖美

松崎 俊介

北村 彩

酒井 伶菜

北野小学校 小林 桜子

吉田 彩華

片岡 由佳

六ッ美西部小学校 鰐淵ののか

三村 紗希

甲山中学校 青山 泰弘

鈴木 理沙

城北中学校

野本 佳佑

東海中学校

松澤 彩香

岩津中学校

杉本 洋平

矢作中学校

和泉 亮哉

矢作北中学校

栗田 朱莉

新香山中学校

本田 有香

北中学校

青山 当知

六ッ美北中学校

酒井 雄一

矢作南小学校

寄田あかね

豊富小学校

郡司麻衣子

六ッ美中部小学校

坂本 文代

梅園小学校

高浜 希来

竜美丘小学校

野々田みゆき

●期待の新任事務職員

平成二十八年度の新任事務職員は八名で、配置は次のとおりである。

梅園小学校

高浜 希来

井田小学校

菅沼 美咲

細川小学校

松井 希奈

大門小学校

三浦 昌也

矢作北小学校

加藤 美幸

甲山中学校

池口 亜実

・題
・タイトルバック
・各タイトル
・カ
ト

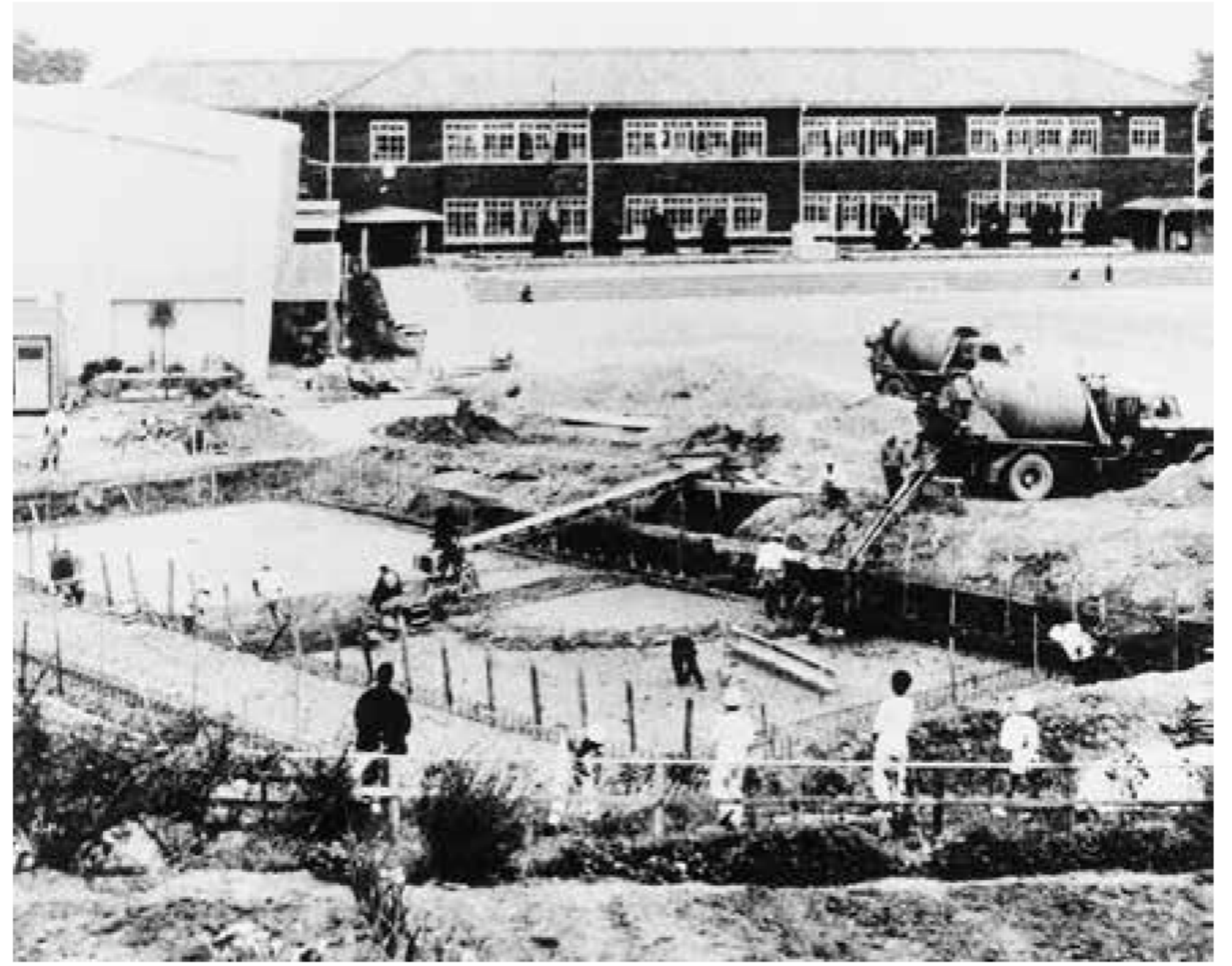
東 細 竜 教
海 川 美 育
中 小 丘 長
太 杉 成 高
田 浦 田 橋
真 真 絢 淳
喜 由 香 淳

プール建設工事 (昭和39年)

写真提供：愛宕小学校

昭和三十九年二月、学区からの強い要望により、愛宕小学校のプール建設工事が始まった。建設にあたっては市からの予算だけでは工費が足りず、一部を学区が負担することで着工が決定し、同年七月、市内の小学校で十六番目のプールが完成した。それまで、広幡小学校や附属小学校のプールを借りて授業を行っていたため、プールの完成は子供や職員にとって大きな喜びであった。

この後、昭和四十五年に岩津小学校と城北中学校に全額公費負担のプールが建設された。これは他の市町に類を見ない先進的な施策であった。子供に充実した教育を受けさせたいという思いは、市民共通の願いであり、今も昔も岡崎の教育を支えている。



とろてん
心太の歴史は古く、正倉院の書物にも登場するという。その伝統ある心太を、多くの人にいつまでも食べてもらうために、長坂さんは新たなことに挑戦する。教育も先人から引き継がれたものを、伝統を守りながら新しいことを生み出すことで、次の世代にバトンを渡したい。

褒め言葉にはいろいろあるが、いちばんうれしいのはきつと、「あの人」から褒められたときだろう。それは尊敬するあの人だったり、大好きなあの人だったり。子供たちが思う「あの人」は、お父さんお母さんかもしれないし、隣の席の子かもしれない。私も「あの人」と思われる先生でありたい。

どホ

卯目



(入学おめでとう)

通学路には、小鳥が楽しく歌い、色とりどりの草花が咲き誇る。新学期を迎え、期待と不安を抱く子供たちを応援するかのようだ。今年、市制百周年を迎え、新たな歴史が始まる。子供たちが夢や希望を持ち、自然・歴史あふれる「ふるさと岡崎」の未来を拓いていくことを願う。



* 「学力」の経済学 中室 牧子
デイスカヴァー・トゥエンティワン ¥1,600

心に残った一文

遺伝や家庭の資源など、子ども自身にどうしようもないような問題を解決できるポテンシャルを持つのは、「教員」だということです。

本書では、データを用いて、子育ての仕方や勉強のさせ方等、教育を経済学的に分析している。一例を挙げると、子供のもともとの能力を褒めるよりも、達成した内容を具体的に褒める方が効果的だという結果が出ている。他にも諸外国での実験事例や分析結果が数多く紹介されており、内容も分かりやすい。

また、著者は、他の子供との比較ではなく、過去のその子供と比較して、今日より明日と伸ばしてやれる先生が「いい先生」であるとも言っている。科学的根拠をもとにした話なので説得力がある。教育の効果を考える上で貴重な一冊である。

* 教育虐待・教育ネグレクト 古荘純一・磯崎祐介
光文社 ¥800
* 発達障害の子に「ちゃんと伝わる」言葉がけ 佐々木正美
すばる舎 ¥1,400
* 知的生活習慣 外山滋比古
筑摩書房 ¥800

連尺小 田村 康則